

■自己紹介  
2021年3月まで15年間、(公社)国土緑化推進機構に在職して、新たに森と人の関わりを生み出すため、産官学民・異業種連携で、森林サービス産業、森と自然を活用した保育・幼児教育、森林ESD、ウッドデザイン賞等の多様なプロジェクトを創出してきました。昨年4月に、コロナ禍を踏まえて自然豊かな地方での子育てと、分野横断的な森林活用を地域に拡げべく、長野県に移住しました。



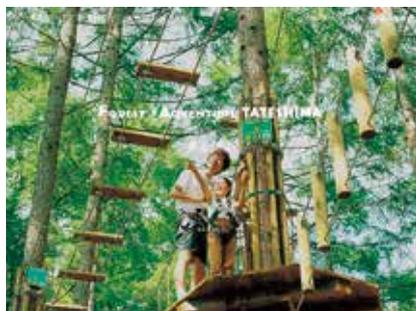
さとゆめ シニアコンサルタント/  
日本ウッドデザイン協会 事務局次長/  
東京学芸大Explayground推進機構  
研究員 **木俣 知大**



長野県信濃町。森林セラピー先進地の長野県信濃町。36の企業・保険者との協定締結等により、平日需要である社員研修を中心とした約4,000泊、約6,500名のプログラム体験の需要を創出。

■活動内容  
前職で携わっていたプロジェクトは、いずれも立場を変えつつもマルチワークで取り組んでいます。が、代表的な取組をご紹介します。  
○森林サービス産業・企業や健康保険組合等と連携した予防・健康づくりとしての「森林セラピー」自律共創型の人材育成に向けた森林内での企業研修等の取組が拡がりつつあります。さらに、コロナ禍で注目の高まっているキャンプ・グランピング、マウンテンバイク・トレイルランニング等の森林スポーツも拡がりを見せています。

○森と自然を活用した保育・幼児教育(自然保育)・幼児期においては子どもの主体的な遊び・学びが求められる中で、園庭を緑化したり、裏山等を整備したりして、自然保育を推進する園が広がっています。  
また、「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」が設立されて、120を超える自治体が参画する中で、「自然豊かな地方での子育て」を望む子育て世代の移住促進のシンボルとして「自然保育」を推進する自治体も広がっています。



新コンセプト「もりぐらし」を掲げ、森と遊ぶ・森で食べる・森に泊まる等の活動を生み出すことで、利用者層の拡がり別荘取引数を倍増させた長野県茅野市「東急リゾートタウン蓼科」。

○連絡先  
E-mail: tomohiro\_kimata@yahoo.co.jp  
<https://fb.com/tomohirokimata/>

多くの皆さまと連携して、森林サービス産業の創出や自然保育の推進など、新たに森や木を活かす取組の環を拡げていければ、と思います。

■メッセージ  
近年、経済的な豊かさだけでなく多角的な豊かさ「Well-being」が求められる中で、コロナ禍もあり、農山村地域や森林空間の価値が再評価されています。そして、農山村地域・森林の価値は、産官学連携・異業種連携で多角的に引き出しており、深まっていくと感じています。



裏山を活用することで、公立園で唯一「信州型自然保育認定制度(特化型)」に認定されている長野県伊那市の山間部にある「高遠第2・第3保育園」。園児30名のうち8割が移住者で園が存続。

シリーズ  
「私の森語り」  
もりぐらし  
森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

